

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	科学技術と倫理		
英文授業科目名	Science Technology and Ethics		
開講年度	2009年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	宇田川 尚人		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sens@mac.com	

【主題および達成目標】
<p>医療現場において加速度的に進化する技術革新の嵐。急速に危機的状況を迎えつつある地球環境問題。そしてそれらを述べるメディアの中で方位なく氾濫する情報としての知識。こうした状況のもとで崩れゆく古い価値観に直面し、今、倫理学はその本質的な見直しを迫られている。時代や状況に依存することのない人間本来の生き方と、先端技術や経済機構が突き付ける極めて「時代的」な問題状況の狭間で、何が今見直され、新たに問われ、基礎付けられなければならないのか？この授業では、こうした問題に対する安易な解答を拒否し、むしろ問題を整理し、各自が自ら考えるための素材と知識と討論の場を提供できたらと考えている。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし

【教科書等】
<p>特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考書は授業内で紹介する。</p>

【授業内容とその進め方】

-----生命倫理-----

- 1) 「脳死」、「安楽死」の諸問題
- 2) 「遺伝子コントロール」、「クローン技術」と倫理
- 3) 「臓器使い捨ての医療戦略」と人格、崩壊する「ライフライン」

-----環境倫理-----

- 1) 「地球温暖化」と「不都合な真実」
- 2) テクノロジーのフラット化と経済のグローバル化の中の「新しい差別」
- 3) 「環境」vs「世代間倫理」の諸問題

-----情報倫理-----

- 1) 巧妙に「透明」化する情報操作の海(web)
- 2) 報道の客観性という幻想?---情報及び記号の中立性への問い
- 3) 情報における「リアリティー」とは何か?--バーチャル・リアリティーとアドバンスト・リアリティー

-----脳神経倫理学からの新たな問題提起-----

- 1) エンハnst・ボディ(拡張身体)がもたらす人間の新たな可能性と倫理
- 2) スマートドラッグによる記憶力・集中力の増強とPTSD患者からの「悲惨な記憶」の消去
- 3) 脳内の化学反応へと解体されてゆく「意識」vs「自由意志」というゴーストの囁き--人格の同一性問題

【授業時間外の学習(予習・復習等)】

予習:あまり必要ないが、配布資料は事前にざっと目を通しておくこと。

復習:論理的・抽象的な思考の展開に慣れていない人は、分からなくなる前に、その都度の論理展開・キーワード等を復習しておくこと。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法:平常点(リアクションペーパー)+レポート+出席率によって総合的(3:5:2)に評価する。

評価基準:2/3以上の出席率と50点以上のレポートの成績を最低基準とする。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、授業前後等に事前にアポイントを取ることが望ましい。

【学生へのメッセージ】

授業への積極的な参加を期待する。

【その他】

「科学技術」の進化は「倫理」にどのような影響を与えるのだろうか？
この問いに対して、この授業では最後に「脳神経倫理学」という全く新しい分野からのアプローチを紹介してみたい。社会一般の何らかの倫理観を前提として特定の科学技術の独断先行に歯止めをかけることを主に目的としてきた旧来の「応用倫理学」とは異なり、「脳神経倫理学」は一方向的な「倫理」と「科学技術」との関係をもはや過去のものとしつつある。何故ならば、この「脳神経倫理学」の分野では、これまでのように「倫理」が脳神経科学の技術的な独断専行に歯止めをかけようとする側面と、反対に「良心」や「意志の自由」と呼ばれるものの成立根拠を脳神経科学が問うことによって「倫理」を基礎付けようとする側面とが常に同時進行することになるからである。